

# 第2回 UD 天文教育研究会 まとめにかえて

## ～共有から共生、そして共動へ～

高橋淳(運営委員 茨城県立水海道一高)

### 1. 第1回 UD 研究会のキーワードは「共有」

2010年に開催した第1回ユニバーサル天文教育研究会のまとめで使われたキーワードは「共有」でした。たくさんの方そして多様な参加者とともに、「宇宙や星について知る・学ぶ楽しみは、世代や性別、障害の有無にかかわらず共有できる」ということを共通理解しました。また、ユニバーサルデザイン天文教育が目指すものは“特殊な立場”にある人々への“特別な活動”ではなく、“誰にとってもわかりやすい”教育普及のありかたの追求であること、すなわち、“特別な活動”ではなく“普遍性を生み出す活動”であることを確認することができました。

### 2. 第2回 UD 研究会では「共有から、共生・共動へ」と拡張

第2回をむかえた本研究会のテーマは「共有から、共生・共動へ」としました。宇宙を学ぶ喜びや感動の共有をベースに、

- ・次世代にむけて天文学の社会認知向上
- ・教育力の拡充
- ・次世代を担うコミュニケーター及び研究者育成のためにどう共動するか

などについて考え、行動をスタートさせるきっかけづくりをすることです。これは、第1回のまとめになぞらえれば、“普遍的な活動のありかたの追求”ともいうことができます。

そして3年ぶりの再会と新しい出会いの中、丸2日間に及ぶセッションにおいて、多くを語り合い、新しい発見や再確認をすることができました。また、新たな課題も提示され、一緒に悩む場面もありました。

そのなかで見えてきたこととは、次のようなことではなかったでしょうか!?

### 3. 本研究会で見えてきたこと

私たち人類は、天文学研究の成果として、

- ・われらはみな星の子
- ・奇跡的に誕生した宇宙や物質の存在
- ・希少な地球や生命の存在

であることを知り、共有してきました。

そのような人類が織りなす普遍性を生み出す活動とは、(今のところ)この宇宙唯一の知的生命体として、**人と宇宙、共に活かすために、**

- ・あなたや私の存在
- ・人や生物の多様性
- ・宇宙や地球の多面性
- ・物質やエネルギーの偶然性や必然性

などの宇宙観や自然観を養い[すなわち、共生を知ること]、

- ・宇宙は？
- ・私たちは？
- ・目指すものは？
- ・何が？
- ・何を？
- ・どうやって？

のような、本当に価値があるもの(こと)は何かの探求[すなわち、共有の方法を探ること]を続けることが大切です。

この探求には、誰もが分け隔てなく次世代に向けてアクションができる社会を構築しようとする事[すなわち、共働]が不可欠となります。ここでいう“分け隔てなく”とは、障害者自身も“分け隔てなく”担い手となることを意味します。

「あなたのできること」と「わたしのできること」を足し合って、

- ・今のためにも 未来のためにも
- ・自分のためにも みんなのためにも
- ・地域のためにも 世界のためにも
- ・地球のためにも 宇宙のためにも

みんなで新しい「可能性」を見つけようではありませんか。

#### 4. まとめにかえて

閉会にあたり、参加者全員で、次のことを確認しました。

「本日、私たちは、天文分野におけるユニバーサルデザインをキーワードに、ここに集いました。普遍性の追求の証として、今後さらに、共有を広げ、共生を深め、大きく共働して、新しい可能性を広げることができる未来をつくれるよう、頑張っていきたいと思います。」

さて、次回への宿題です。次回は、「共働＝ユニバーサルデザインの確立」を目指して集いたいと思います。それまで、参加者の皆さんそれぞれがそれぞれの活動の場で「共働」を追求され、新しい「共有」「共生」「共働」の姿を持ち寄って再会したいと思います。